

## 【公開講演会】

高井一氏トークショー 一名古屋の人・街・文化を考えるー

1部：『はじめの一步』で名古屋を歩いてみて

2011年9月12日（月）17:00～18:00  
名古屋キャンパス白鳥学舎翼館クラインホール  
【参加者 146名】

【講師】 高井一氏（東海テレビアナウンサー）

東海テレビアナウンサー高井一氏によるトークショー。

同局番組『スタイルプラス』の人気コーナーである『はじめの一步』で、自らカメラを携えて名古屋市内の随所を散歩リポートしています。その取材体験で感じた名古屋の魅力や再発見について、『はじめの一步で歩いた名古屋』と題し、『歩いて感じたこと』『名古屋は城下街』『街で出会った職人さん』『発見！美味しいモノ』『名古屋の人は緑が好き？』『発見！ちょっと変』『ちょっといい景色！』のテーマ別に、出会った人や街の風景などを高井氏自ら撮影した写真を紹介しながら語っていただきました。



### ○『はじめの一步』について

『普段見慣れた風景も、少し視線を変えると、そこには意外な発見が…』をテーマに、高井氏が趣味のカメラを片手に東海三県を散歩し、街やそこに暮らす人々と触れ合うもの。2008年5月4日から始まり、2011年9月11日までで141回の放送。

うち名古屋市内は88回放送されている。

普段テレビには映らないスタッフの写真を紹介し、取材時の様子やルール、心がけていること、衣装や持ち物などについてもお話されました。



### ○歩いて感じたこと

「30数年名古屋で暮らしてきて、いかに表通りしか見てこなかったかと思った。表通りはビジネスの顔だが一本裏に入ると暮らしがある。暮らしの顔はいきいきしている。

一本入ると自分が内視鏡になった気分になる。その街がどんな街かわかってくる。」  
(一回目のロケでインタビューしたお婆ちゃん、高層ビルの中の古い民家の写真とともに。)

#### ○名古屋は城下町

「名古屋は城下町であると改めて感じた。名古屋城は観光ポイントと思っていたが、毎日の暮らしのなかでお城が見える地域があり、古きよき名古屋があると感じた。」

「歩いてみるとかつての城下町、市電が走っていた範囲、その後開けていった範囲と、雰囲気の違いがある。」

新しい街と古い街の違いを歩いて確かめてみるのも散歩の楽しみである」

(街から見た名古屋城の写真を、戦前と現在の街の姿と比較しながら)



#### ○オススメの場所

「141回の放送の中で一番感激したオススメの場所は、西区の名城市場。場内には有線放送の歌謡曲が流れ、地域の人々が次から次へとやってくる。そして、お客さんも店の人もニコニコ。小学生の頃におつかいに行った市場と同じ雰囲気。こんなに元気な市場がまだ残っていたのが嬉しかった。『三丁目の夕日』の世界そのもので懐かしく感じた。」

(市場で働く人々の笑顔の写真とともに紹介)

#### ○名古屋の魅力

「名古屋は京都のように歴史や物語がある街でもない、東京のように新しい流行や情報をどんどん発信する街でもない。地味で堅実な街。でも、歩いてみると新しい名古屋があり、古い名古屋もあります。実は、知らない人間同士が声を掛け合い、うまく繋がることのできる優しい街なのです。そんな雰囲気は大事にしておくべき。まず動いてみる、みんながいろんなところに入りし、歩いて自分なりに名古屋の魅力を見つけていただけたらと思う。」

最後にロケ用のバックから自身のカメラを取り出し、舞台上から会場内参加者を撮影。和やかな雰囲気で幕を閉じました。



## 2部：堀川から望む名古屋トークセッション

堀川月見船乗船 【行程】白鳥棧橋→松重閘門→宮の渡し→白鳥棧橋

2011年9月12日(月) 18:30~20:00

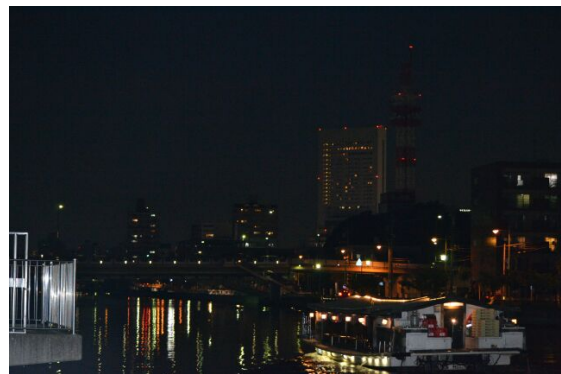
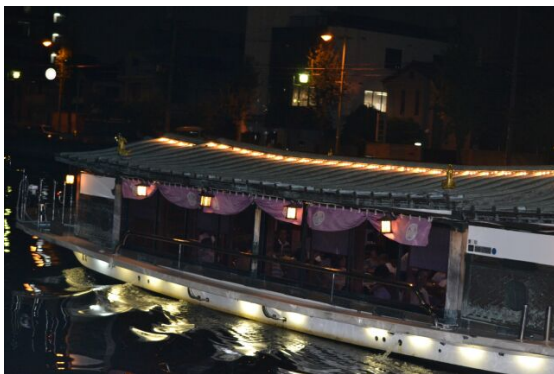
【参加者 28名】

【講師】高井一氏

水野晶夫(本学経済学部教授)

曾我良成(本学リハビリテーション学部教授)

続いて、中秋の名月にもあたるこの日、希望者より抽選で選ばれた30人と、本学名古屋キャンパス白鳥学舎のすぐ横を流れる堀川の白鳥棧橋から、満月の下屋形船を浮かべた「堀川月見船」に乗船し、船中での食事と、高井氏と本学水野晶夫教授・曾我良成教授で名古屋の魅力を見直すトークセッションを行いました。船中では、高井氏への質疑応答も行われ、多数の質問にお答えいただきました。当日は天気にも恵まれ、きれいなお月様を眺めることが出来ました。



(文責：地域連携センター長 家本博一)